



# 社会にフォーカス

Vol. 13

社会の部屋では、授業で取り上げたい時事問題や教師が押さえておくべき教育界の動向について焦点を当てて紹介するコーナー「社会にフォーカス」を随時掲載します。



## 高等学校 地理歴史科新科目「歴史総合」とは？



**2022年度から高等学校において新学習指導要領が実施されます。高等学校との連携強化の意味から関連する内容を踏まえておく必要があります。**

### ●新科目「歴史総合」とは

これまで高等学校の学習指導要領では、地理歴史科において「世界史（A・Bいずれかを履修）」が必修科目となっていました。国際化が進む昨今において、「世界史」を学ぶ必要性が高まっているためです。加えて、選択科目の中からいずれか1科目を選択履修することが必要でした。このことにより、高等学校で日本史を学ばない生徒がいたわけです。今回の改訂では、「世界史」と「日本史」を融合させ、全ての生徒に「日本史」も学ばせることを目指したのが新科目「歴史総合」です。（表1）

（表1）地理歴史科における改訂点

	必修科目	選択科目
現行	世界史A・世界史B (A・Bいずれかを履修)	日本史A・日本史B・地理A・地理B (いずれか1科目を履修)
改訂後	<b>歴史総合・地理総合</b> <b>(いずれも履修)</b>	世界史探究・日本史探究・地理探究

※ 高等学校には地理歴史科の他に公民科があります。

改訂後は、「歴史総合」、「地理総合」のどちらも必修となり、さらに「世界史探究」、「日本史探究」、「地理探究」から選択して履修することとなります。



## ●「歴史総合」で育てたい力

新学習指導要領においては「歴史総合」の目標について、下記のように明記されています。

### 柱書として示された目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

#### (1)知識及び技能

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

つまり、「歴史総合」は、これまでの「世界史A」と「日本史A」（ともに近現代史を中心とする内容）の単なる統合科目ではなく、「社会の形成者となる生徒が、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を主体的に考察、構想できるように配慮した」内容であるということです。

「歴史総合」では、多面的・多角的な考察を通じて、世界とそこにおける日本を広く相互的な視点から捉えることが求められています。

「歴史総合」で育てたい力とは・・・

- 自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力
- 持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度（中央教育審議会答申より）



## ●「歴史総合」の構成

「歴史総合」では、歴史的事象を一通りたどる従来の歴史学習の発想を離れ、「近代化」「大衆化」「グローバル化」という大きな社会変化がどの時期にどの地域でおこり、どんな社会変化を意味しているのかを考えさせます。また、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を多面的・多角的に考察させる構成となっています。（表2）

中学校までの歴史学習の成果を活かしつつ、そこに登場する主要な事象が歴史の中でどのような意味をもって位置付くのか、近現代史は全体としてどのような展開をとげたのかを課題追究的な活動を通して、高校歴史学習のより確かな基礎を築くことが求められているのですね。

1 目標
2 内容
A 歴史の扉
(1) 歴史と私たち
(2) 歴史の特質と資料
B 近代化と私たち
(1) 近代化への問い
(2) 結び付く世界と日本の開国
(3) 国民国家と明治維新
(4) 近代化と現代的な諸課題
C 国際秩序の変化や大衆化と私たち
(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い
(2) 第一次世界大戦と大衆社会
(3) 経済危機と第二次世界大戦
(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題
D グローバル化と私たち
(1) グローバル化への問い
(2) 冷戦と世界経済
(3) 世界秩序の変容と日本
(4) 現代的な諸課題の形成と展望
3 内容の取扱い

（表2）「歴史総合」の構成

